



# 蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 22

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚

## 伊予見峠

昭和47(1972)年頃  
山本町

伊予見峠は現在国道377号が通っているが、かつては交通の難所であった。昭和47年、伊予見峠が整備され豊浜・琴平間が県道になると、国鉄バス・琴参バスの路線バスが運行されるようになる。

### 「思い出のページ」

「ここから愛媛県の二ツ岳が見えるから、伊予見峠って言うんですよ。昔はよう見えてた」  
峠のすぐ近くに住んでいる大西勝さん(80)は、懐かしそうに話してくれました。

「今の道は昭和40、46年ごろにできた道。それ以前の道はカーブが多く『七曲の峠』と言われていました。うちの裏側のカーブもすぐ急でしたよ。」  
そもそも、最初の伊予街道は神田川上流の川沿いにあったんです。狭い道でしたが、少しづつ道幅を広げ、籠や人力車が通れるまでになりました。戦時中私が小学生のころは、神田小学校の半分くらいの子が、その道を通って牛屋口を越えて、金比羅の山にどんぐりを拾いに行きました。粉にして食糧にするためです。子どもの足で金比羅まで歩くのは、本当にしんどかったですよ。

その後何度か改良を重ね、元の道より高いところに道がつき、山すそに沿ってカーブしたバス道ができました。終戦直後は鉄道省の省営バスが運行していましたが、これが木炭バスでね。伊予見の坂がきつくて上れずに、途中でバスが引き返すこともありました。当時、私は旧制中学にバスで通っていましたが、そ

このころのバスは自転車より遅かったくらいですよ。  
バス道のカーブをまっすぐに直してできたのが、今の道です。伊予からの車が観光などでよく使っていたこの道も、高速ができて以降、観光バスはほとんど通らなくなりました。振り返ってみると、単なる道にすぎないけれど、そこには時代の流れがある。思い出もある。峠に対する愛着や郷愁を感じますね」



### 編集 後記

**今**年は雨が多い夏でしたが、日差しが強く暑い日も多かったですね。でもそれ以上に熱かったのが、今回特集した農家の人々の農業にかける思い。皆さんの熱い思いや、そこに至るまでの道のりなどを聞くと、書きたいところがいっぱいでどの部分を掲載しようかと頭を抱えてしまっただけでした。

これまでの、三豊ならではの魅力を守りながらも、さらに新しい農業のカタチを切り拓く人たち。厳しいといわれる現状に捉われないことなく、このまちの農業の未来予想図を描き、挑戦する皆さんの姿に「三豊の農業者の底力」が見えました。熱いぞ、農業！